

令和3年3月31日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長 殿

住所 神戸市中央区下山手通5-10-1  
管理機関名 兵庫県教育委員会  
代表者名 教育長 西上 三鶴

令和2年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

1 事業の実施期間

令和2年5月25日(契約締結日)～ 令和3年3月31日

2 指定校名・類型

学校名 兵庫県立村岡高等学校  
学校長名 大垣 喜代和  
類型 地域魅力化型

3 研究開発名 ちいき大好きプロジェクト～郷土愛を育む「村岡メソッド」の開発～

4 研究開発概要

地域活性の核として、高校の拠点機能を強化し、地域における「人づくりネットワーク」の構築を図る。その上で、地域課題の解決等に資する学習を官民学協働で体系的に実施し、生徒の郷土愛を育み、「地域を育てる学力」を形成する。また、本事業の評価及び卒業生の就職状況調査を分析し、その取組の具体的な検証と評価方法を開発する。

5 学校設定教科・科目の開設、教育課程の特例の活用の有無

- ・学校設定教科・科目 開設している ・ 開設していない
- ・教育課程の特例の活用 活用している ・ 活用していない

6 運営指導委員会の体制

機関名	機関の代表者名
兵庫県教育委員会	高校教育課長 西田 利也
香美町教育委員会教育総務課	副課長 山田 貴広
香美町企画課	副課長 川戸 英明
兵庫県立村岡高等学校	校長 大垣 喜代和

兵庫県立村岡高等学校同窓会	会長 西村 芳和
鳥取大学地域学部	教授 筒井 一伸
NPO 法人 TUKULU	代表 松岡 大悟
うづかの森 (民間企業)	代表 西村 昌樹
やまもり村岡 (民間団体)	代表 上田 治

#### 7 高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

氏名	所属・職	備考
川井 史彦	兵庫県企画県民部地域創生局企画参事	関係行政機関
西田 利也	兵庫県教育委員会高校教育課長	関係行政機関
今井 雄治	香美町副町長	関係行政機関
水垣 清和	香美町企画課長	関係行政機関
清水 幸信	香美町教育委員会教育総務課長	関係行政機関
山根 俊喜	鳥取大学地域学部学部長	学識経験者
横山 真弓	兵庫県立大学教授	学識経験者
西村 功	村岡区自治会長	地域住民
入江 善博	入江産業代表取締役	地域住民

#### 8 カリキュラム開発専門家、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	筒井 一伸	鳥取大学地域学部教授	都度依頼・謝礼支払い
地域協働学習支援員	房安 晋也	香美町地域おこし協力隊	香美町企画課 会計年度任用職員

#### 9 管理機関の取組・支援実績

##### (1) 実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営指導委員会 コンソーシアム連携協議会	組織		開催				開催					開催
カリキュラム開発 専門家							研修		研修			研修
地域協働学習支援員	本校担当として常勤で支援 											

##### (2) 実績の説明

活動日程	活動内容
令和2年4月16日	運営指導委員会、コンソーシアムを組織
令和2年6月30日	第1回会議 ・申請の経緯、事業方針を説明し、今後の事業内容に対し指導助言 ・会議日程について協議

令和2年10月10日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育館にて開催した「総合的な探究の時間、地域探求発表会」での本校生徒のプレゼンテーション、ポスターセッションを見学</li> <li>第2回会議（ランチミーティング）</li> <li>・発表会の内容や活動について意見交換を行い、発表内容や生徒の取組、アンケートについても指導助言</li> <li>村高フォーラム2020での基調講演</li> <li>・「地域人材を活用した教育教材開発の試み」とパネルディスカッション「地域と学校（「教育のまち」を創る）」を自由参観</li> </ul>
令和3年3月9日	<ul style="list-style-type: none"> <li>「総合的な探究（学習）の時間」発表会をオンラインで開催し、発表会を見学</li> <li>第3回会議</li> <li>・今年度の取組について成果・評価・課題を総括・指導助言</li> <li>・来年度の取組について概要を説明し、協力体制について打合せ</li> </ul>

- ・コンソーシアム及び運営指導委員会に担当指導主事を派遣し、大学・企業・関係機関等の専門家と意見交換を図りながら、事業の成果と評価をもとに指導・助言を行った。
- ・コロナ禍における、オンラインでの実施における指導・助言等を行った。
- ・国費に加え、県事業「県立高校特色づくり推進事業（インスパイア・ハイスクール）」にて追加予算を行い、より充実した取組を支援した。
- ・事業終了後、本事業の取組を持続可能なものにするために一定の事業経費を計上し、支援する予定。

## 10 研究開発の実績

### (1) 実施日程

実施項目	実施日程												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学校設定科目 地域創造系の探究活動		オン ラ イ ン											
学校設定科目 アウトドアスポーツ系の探究活動													
総合的な探究の時間「村 高発地域元気化プロジ ェクト」		オン ラ イ ン											

### (2) 実績の説明

#### ① 研究開発の内容や地域課題研究の内容について

##### ア 地域創造系の探究活動

「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」、  
「安心して暮らせるまちづくり」をテーマに、香美町の実情を把握し、高校生の視  
点で新たな価値観を見だし、課題解決する学びを通して「地域を育てる学力」を  
系統的に高める。

《地域学入門（1学年）テーマ「地域を知る」》

- ・オンラインによるオリエンテーション、導入(zoom)

- ・水生昆虫調査（講義、実習）地元講師 西田 昭夫氏 7月～8月
- ・海洋生物、地層調査（講義、スノーケリング、シーカヤック実習）8月  
地元講師 本庄 四郎氏
- ・獣被害について（講義）兵庫県立大学 教授 横山 真弓氏 8月
- ・但馬の植生調査（講義、調査）地元講師 菅村 定昌氏 9月
- ・但馬の地質調査（講義、実習）地元講師 三木 武夫氏 11月
- ・村岡の歴史調査（講義、実習）地元講師 石松 崇氏 11月
- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10月
- ・マーケティングを活用した地域づくり（講義、プレゼンテーション）12月  
鳥取大学地域学部 講師 白石 秀壽氏

#### 《地域探求Ⅰ（2学年）テーマ「地域を深める」》

- ・オンラインによるプレゼンテーション、授業(zoom) 5～6月
- ・国際的・芸術的・文化的アプローチによる地域活性「石碑を巡る香美の旅」（仮称）  
鳥取大学地域学部 助教授 ギンナン・アレクサンダー氏
- ・合宿研修にかわり地域活性化についての意見交換を奈良県明日香村とオンラインにて研修 8月  
文化財を活用した地域活性、地域づくりを学び、国際的・芸術的・文化的観点から香美町の文化財（特に石碑）を活用した地域づくりの方策を考える。
- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10月

#### 《地域探求Ⅱ（3学年）テーマ「地域を創る」》

- ふるさと教育の教材開発 「ものしり博士を活用した教材ゲーム」（3種類）  
講師 鳥取大学地域学部准教授 武田 信吾氏
  - ・オンラインによるプレゼンテーション、グループワーク、授業(zoom) 5月～6月
  - ・構想の後、試作し校内において試行2回 7～8月
  - ・学童保育の小学生を対象にゲーム実施 9～12月
  - ・課題を確認し調整（町教育委員会指導主事、小学校職員、ものしり博士）11月
  - ・ものしり博士を交えて学童保育の小学生を対象にゲーム実施 12月
  - ・まとめ授業、製品化に向けて仕上げ 12月
- 「ものしり博士ガイドブック」作成  
講師 鳥取大学地域学部准教授 武田信吾氏
  - ・ものしり博士へ聞き取り調査、原稿作成 7月～10月
  - ・ものしり博士を交えてガイドブックに調整、校正 11月
  - ・製品化に向けて仕上げ 12月
- 卒業論文「私の地域活性化プラン」原稿作成、校正（生徒に担当教員が指導）  
7月～12月

#### 《地域創造系全体の取組》

- 地域創造系夏季調査実習（総合的な探究の時間とリンク）8月～9月  
集落の魅力発信プロジェクト「むらの風景 vol 4～小代区の若者の魅力発見～」  
におけるインタビュー調査  
※従来は地域の高齢者を対象としていたがコロナ禍において対象を若者に変更  
講師 鳥取大学地域学部教授 筒井 一伸氏  
（協力アドバイザー）  
香美町役場小代地域局長 井口 晃氏

スミノヤゲストハウス（元香美町地域おこし協力隊）田尻 茜氏  
カリキュラム開発専門家：鳥取大学地域学部教授 筒井 一伸氏  
地域協働学習実施支援員：本校教育コーディネーター 房安 晋也氏

b 地域探求講演会（町長講演会）7月

香美町（地域）の代表者に現状と課題を講演していただき「地域に学び地域に協働する学校づくり」についてグループ討議を行う。

講師 浜上 勇人氏 香美町長

助言者 塩沢 健一氏 鳥取大学地域学部准教授

c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9月～10月

d 「ビジョン若者出前講座」（1、3年生）12月

2050年の兵庫の姿について講義を受け、兵庫の未来について考え、但馬（村岡）の未来を創造する参考とし、グループワークにより地域づくりの学びを深める。

講師 大町 充弘氏 県企画県民部ビジョン課班長

イ アウトドアスポーツ系の探究活動

「自然や暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」を目指し、地域固有のレクリエーション資源（自然）を学び、アウトドアスポーツの魅力が伝えられるリーダー育成に必要な知識・技術を身に付けるとともに、アウトドアスポーツイベントの運営に必要な知識・手法を学び、香美町教育委員会・民間企業等と連携した企画を立案、実施するなど、より実践的な学びを行う。

《地域学入門（1学年）》

テーマ「地域資源を活かしたアウトドアスポーツ体験」「スポーツ基礎理論と実践」

a アウトドアスポーツ体験 地元講師 西垣幸造氏 9月

b スポーツと身体機能について（柔道整復学、理学療法学、鍼灸学、スポーツ外国語） 9月 講師 履正社医療スポーツ専門学校職員

c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9月～10月

d 栄養学 講師 飯田みつ子氏 12月

《地域スポーツⅠ（2学年）》

テーマ「健康づくりと地域活性（介護予防体操による身体機能改善）」

a フィットネスレッスン体験 講師 京都医療健康専門学校 9月

b 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9月～10月

c 介護予防体操による身体機能改善の進め方 11月

講師 鳥取大学地域学部准教授 関 耕二氏

ウ 地域スポーツⅡ（3学年）

テーマ「オリエンテーリングの普及および教育的効果」

a オリエンテーリングコース設計、リハーサル 9月

町教育委員会 田中 寿彦氏 南垣 強氏

b 土曜チャレンジ学習事業に参加児童を対象にオリエンテーリング体験 9月

c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 9月～10月

- d 「ワールドマスターズゲームス2021関西」オリエンテーリングプレ大会参加及びアンケート調査 11月
- e 地元小中学生へオリエンテーリングの普及活動 11月
- f 報告書作成 12月

エ アウトドアスポーツ系全体の取組（総合スポーツ学）

- a 冒険教育 テーマ「地域の自然を活かしたスポーツインストラクター資格取得」・ツリーイング、キャンプ、レクリエーション、クライミング、ラペリング等の体験、指導実習
- b 地域スポーツ テーマ「地域の自然環境を活かしたスポーツの技術習得」  
・ゴルフ、スキー、スノーボード、スノーシュー、クロスカン트리スキー
- c 「地域探求・総合的な探究の時間発表会」におけるプレゼンテーション、ポスターセッションに向けた原稿・ポスター作成、発表準備 10月
- d 土曜チャレンジ学習事業（香美町教育委員会事業）指導補助 7月～12月  
シャワークライミング、オリエンテーリング、ボルダリング

オ 総合的な探究（学習）の時間「村高発地域元気化プロジェクト」の探究活動

生徒同志が議論して改善・充実を図っていけるよう、学年を越えた全校生徒を、興味・関心にもとづいて5班8グループに分け、「自然と暮らし（地域資源）を活かした観光・レクリエーション産業の活性化」「安心して暮らせるまちづくり」をテーマとして、班毎に課題解決に向けた地域協働活動に取り組む。

- a 民芸班  
演舞グループ：「南中ソーラン」の介護予防体操版の作成、映像化する。  
紙漉グループ：「射添紙でつなごう村岡から世界へ」紙漉き体験を通じて地域の魅力を発信し、地域の認知度を上げ地域魅力化につなげる。
- b 吹奏楽団班  
吹奏楽グループ：音楽を通して地域との交流を深め、地域になくてはならない吹奏楽団を目指す。
- c 食文化班  
食文化グループ：「村岡米」など地元食材を活用した高校目線でのレシピを提案し、情報発信することにより地域経済を盛り上げ活性化につなげる。
- d 環境班  
棚田グループ：うへ山棚田の保全及び観光資源としての研究と棚田米の広報  
森健グループ：地域の環境保全に繋がる取組を行う。間伐材の有効活用（木の駅プロジェクト）及び冬期の独居老人宅や公共道路の除雪活動
- e 地域福祉班  
地域福祉グループ：高齢化、子育て支援についての調査を行い、世代を超えた交流を目指す  
小規模集落調査グループ：小規模集落の魅力を再発見する調査、魅力発信（コロナ禍により対象を若者へ変更）

② 地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

- ・地域創造系 学校設定教科 地域探求  
学校設定科目 地域学入門（1年） 地域探求Ⅰ（2年）  
地域探求Ⅱ（3年）

- ・アウトドアスポーツ系 学校設定教科 地域探求  
 学校設定科目 地域学入門（１年）地域スポーツⅠ（２年）  
 地域スポーツⅡ（３年）  
 学校設定教科 総合スポーツ学  
 学校設定科目 冒険教育 生涯スポーツ スポーツ実践
- ・学校設定教科 協働のまちづくり（１年） 総合的な探究の時間（２、３年）

③ 地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

ア 協働のまちづくり（１年 総合的な探究の時間） 総合的な探究の時間（２、３年）  
 名称「村高発 地域元気化プロジェクト」 全校生 １単位

- ・学校設定教科「地域探求」での地域との協働による探究的な学びと「総合的な探究の時間」（村高発 地域元気化プロジェクト）を密接に連携させ教科横断的に展開することにより、さらに効果的なものとする。
- ・地域課題の解決に向けた探究活動を効果的に進めていくためには、各教科で学習する知識を身に付け、活用することが求められるが、教科の学びを単独ではなく、互いに関連付け、総合的に活用する力を育成する。
- ・各教科・学校設定教科「地域探求」での活動を「総合的な探究の時間」（村高発 地域元気化プロジェクト）により計画・実行・検証することにより探究活動を多面的に捉え、分析する学びに発展させることにつなげる。

イ 学校設定教科「表現」 学校設定科目「スピーチ」 ３年生選択教科 ２単位

- ・高校生が生涯をとおして、主体的に生涯の生活を設定し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を考えると共に、自分の言葉で表現できるようにする。
- ・Society5.0、人生100年時代における、地域と自分の姿を想定することにより、地域の未来を創造し、キャリアプランニング能力を育てる。

④ 類型毎の趣旨に応じた取組について

ア 地域住民への広報

- ・「地域探求・総合的な探究の時間発表会」でのプレゼンテーション、ポスターセッション
- ・土曜チャレンジ学習事業でのオリエンテーリング、クライミング、ボルダリング等の普及

イ 他校生徒、地域住民、学識経験者等との交流、地域の魅力を再認識、資質向上

- ・「村高フォーラム2020」での講演会、パネルディスカッション
- ・地域探求講演会（町長講演会）
- ・研修合宿（奈良県明日香村）にかえてオンラインによる地域活性化について研修

ウ その他

- ・全卒業生への本校の事業の認知、協力に関するアンケート調査

⑤ 成果の普及方法・実績について

- ・教育教材「ものしり博士ガイドブック」「ものしり博士を活用した教材ゲーム」（３種類）の作成、配布
- ・集落の魅力発信プロジェクトによる「むらの風景 vol14～小代区の若者の魅力発見～」（仮称）の発行
- ・卒業論文「私の地域活性化プラン」の作成、町への提言・発信

1.1 目標の進捗状況、成果、評価

(1) 本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）

- ・地域をよくするために、地域における問題にかかわりたいと思う生徒の割合  
 1年目目標値 60% 1年目実績 75.0%

- ・高校卒業後、いずれは地元で働きたいと希望する生徒の割合  
1年目目標値 50% 1年目実績 56.1%
- ・高校卒業後、地元で貢献したいと思う生徒の割合  
1年目目標値 60% 1年目実績 76.8%
- (2) 地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）
  - ・外部講師（大学教授、地元企業、地域住民等研究者）による授業回数、研修回数  
1年目目標値 60回 1年目実績 111回
  - ・地域課題について研究の取り組みを発表する機会  
1年目目標値 5回 1年目実績 3回
- (3) 地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）
  - ・コンソーシアムの構成団体数 1年目目標値 6団体 1年目実績 8団体

<添付資料>目標設定シート

1 2 次年度以降の課題及び改善点

(1) 課題

- ・コロナ禍の状況において、地域への発信や発表会、他校や先進校との交流が難しく実施出来なかった。
- ・地域との協働や活性化する活動を探究し実践する「総合的な探究の時間」が校内活動に終始せざるを得ず、計画していた校外の探究活動が不十分な活動となった。
- ・本校の既存の活動から更に活動を発展させ、コンソーシアム・外部指導者の拡大、カリキュラムの開発に取り組むことが難しい状況であった。

(2) 改善点

- ・今後のコロナ禍も想定し、今年度蓄積したICT等の会議システムやコミュニケーションツールの研修と積極的活用により、オンラインによる発表会や交流の体制整備を行う。また、「Instagram」「Facebook」「YouTube」による発信を行う。
- ・本校の重視するフィールドワークや協働活動では、感染予防対策を徹底し実施可能な方策を立て、生徒の内的動機付けによる自己決定能力を育成する探究活動を確立させる。
- ・カリキュラム開発等専門家と地域協働学習実施指導員との連携により、校外の活動が制限される場合を予測した計画立案を行う。
- ・コンソーシアムを拡大し、人・団体との開発・連携を図るために地域（校外）の教育コーディネーター体制の確立を目指す。また、卒業生アンケートを活用した関係人口を増加させ、卒業生からの支援やまちづくりを通じた人と人との連携を図る「人づくりネットワーク」の開発を進める。
- ・交通の便の悪い本校においては、オンラインを必須のアイテムとして確立し、遠隔地の卒業生をはじめとする人や地域、企業、大学とさらに連携を深め、ロジカルシンキングとしての探究活動を深める取組を行う。

【担当者】

担当課	兵庫県教育委員会事務局 高校教育課	TEL	078-362-3817
氏名	堂阪博文	FAX	078-362-4288
職名	指導主事	e-mail	koukouyouikuka@pref.hyogo.lg.jp